

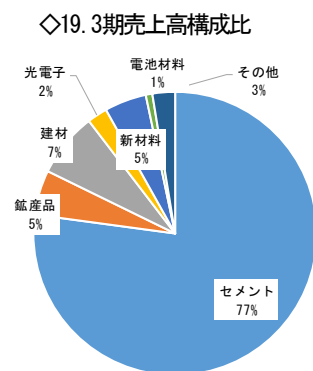
企業ニュース 住友大阪セメント

(東証1部: 5232) <https://www.soc.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

多角化をめざす国内大手セメントメーカー

1994年に住友セメント（1907年、磐城セメントとして設立）と大阪セメント（1926年、大阪窯業セメントとして設立）の両社合併により設立された、国内大手セメントメーカー。国内初の生コンを製造、その場所（磐城セメント全額出資の生コン工場跡地）は現在東京スカイツリーが立っている。同工場から東京メトロ銀座線工事向けに納品された。セメントの生産及び関連事業は現在でも中核事業だが、経営の多角化のため1980年代より先端技術分野への事業展開に取り組んできた。現在LN変調器（電気信号を光信号に変換）などの光電子事業、半導体製造装置用部材の静電チャック（炉内などでウェーハを固定させる部材）などの新材料事業、電池材料（リチウムイオン電池正極材）事業として発展させてきた。LN変調器は通信インフラ整備などでの需要拡大が期待されている。



(出所) 住友大阪セメント資料よりCAM作成

光電子事業の業績回復に期待

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が589億円、前年同期比2%減、営業利益が28億円、同3%増。主力のセメントは厳しい経営環境が続く一方、光電子事業が伸長した。セメントは、オリンピック関連需要などの官公需は減少したが、堅調な民需が下支えした。19.3期は在庫調整の影響を受けた光電子事業は需要が回復し、営業利益は黒字転換した。下期偏重の会社計画だが、第1四半期としては堅調なスタートを切った模様。

20.3期の会社計画は、売上高が2,574億円、前期比3%増、営業利益が170億円、同20%増。下期偏重の期初計画のため据え置きだが、業績回復感が高まっている。セメント値上げ交渉は、業界・会社などがもくろむ水準には届かないが、徐々に進捗し一定の収益改善効果は期待できよう。一般炭の市況下落も下期以降のコスト削減に寄与、光電子事業の底打ち反転も増益要因となろう。半導体製造装置用部材には懸念もあろうが、ロジックなどは堅調さを維持し、メモリー価格に下げ止まりの期待もあり、中期的には回復傾向となろう。

【株価動向・投資判断】

非セメント事業の業績貢献、防災・地盤改良などの需要が強い西日本での強みを持つ顧客構成など、業界内での優位性に注目したい。光電子事業の底打ち反転で、業績回復を見込む。

<5232 住友大阪 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	244,826 (5)	18,990 (▲12)	20,153 (▲11)	14,659 (▲10)	36.1	11.00
19.3	251,061 (3)	14,178 (▲25)	15,799 (▲22)	7,799 (▲47)	199.2	60.50
20.3 予	257,400 (3)	17,000 (20)	18,200 (15)	12,000 (54)	311.1	120.00

(注) 18年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施。

19.3期の1株配当は第2四半期末5.5円と期末55.0の単純合計で表示



[主要株価指標]		(売買単位: 100株)
株価 (2019/9/13)		4,710 円
年初来高値 (高値日)		4,890 円 (19/2/6)
同 安値 (安値日)		3,875 円 (19/8/6)
予想 P E R (20.3 予)		15.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)		5,037.6 円
P B R		0.93 倍
予想配当利回り		2.55 %
(1株当たり配当金年120.00円)		
R O E (19.3)		4.0 %
発行済み株式数		4,064 万株